

令和7年度 学校経営の構想

1. 校訓 ～校訓はみちしるべ～

自分に負けるな 本気で取りくめ 仲良く助けあえ

2. 学校教育目標

志をもち 未来に向かってたくましく生きる子どもの育成

めざす学校像	めざす子ども像	めざす教師像
<ul style="list-style-type: none"> ○ 行きたい学校(児童) ○ 通わせたい学校(保護者) ○ 勤めたい学校(教職員) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲的に学ぶ子 ○ 自他を思いやる子 ○ いきいきとした子 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心も体も元気な教師 ○ 児童一人ひとりを大切にする教師 ○ 児童、保護者、地域に信頼される教師

3. 経営の基本方針

学校の華(強み・文化・伝統)の継承

- ・ 子どもが喜び(わかる・できる、認められる、交流する)を実感できる学校をめざす。
- ・ 自分のよさを生かし、互いに認め合い、励まし合うことで、高め合える児童を育成する。
- ・ 道徳科、人権・同和教育を柱にし、正しい人権感覚等を育成する心の教育の充実を図る。
- ・ 児童の成果のために、全教職員が協力・協働する学校を創造する。
- ・ 家庭・地域との連携と協働のもと「人が人を育てる」「人が人をつなぐ」学校づくりを行う。

4. キーワード

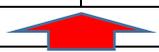
ほめて ・ 認めて ・ 励まして

5. 本年度の重点

意欲的に学ぶ子	自他を思いやる子	いきいきとした子
<p>① 学びの質を高める授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「知りたい・伝えたい」学びの涵養 ・ 個を活かす協働的な学びの実現 ・ ICTの有効活用と個に応じた指導 <p>② 基礎・基本の確実な定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力分析と改善に向けて共通実践 ・ シンキングサブリの充実・授業活用 ・ 家庭学習や読書活動の意欲化 <p>③ 特別支援教育の組織的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズに応じた指導・支援の充実 ・ 合理的配慮やかかわり方の共有化 ・ 校内体制整備と保護者理解の促進 	<p>① 高きに和す集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ、返事、応援が響き合う学校 ・ 場を保障し褒めて高める自尊感情 ・ 信じて、任せて、主体性を育てる支援 <p>② 不登校・いじめ・虐待の適切対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個の特性や状況に応じた不登校対策 ・ 共通認識したチームによる生徒指導 ・ いじめ・虐待の早期発見、見守り継続 <p>③ 人権尊重の精神の涵養</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 偏見・差別のない正義の気風づくり ・ 保護者と連携した人権・同和教育 ・ 道徳教育の充実と実践力の育成 	<p>① 健康教育推進と生活リズム改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実感し、実践意欲を高める保健教育 ・ 睡眠を核にした生活良習慣づくり ・ 家庭、地域と連携した食育の推進 <p>② 体力づくりと運動好きの涵養</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しさと伸びを感じ得る体育科授業 ・ 体づくり運動と外遊びの段階的推進 ・ 運動の日常化をめざした活動の工夫 <p>③ 生命尊重を基盤とした安全教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内外での安全な行動の日常化 ・ 防災意識を高める避難訓練の実施 ・ 外部講師を活かした、いのちの授業



保護者・地域と連携した学校運営	協力して課題に対応するチームの創造
<ul style="list-style-type: none"> ① 学校運営協議会及びサポート隊との連携強化 ② 情報発信による学校理解の推進(双方向の各種たより) ③ こ・保・小・中の具体的な接続を共通理解した連携 	<ul style="list-style-type: none"> ① 成果や課題、悩みを出し合い、話し合える学年団経営 ② 報・連・相の徹底による、協力体制の確立 ③ 四指導部の核とした、実態に即した、焦点化した実践



「教職員の働き方改革プラン」の推進

- PTAとも連携して改善した、学校行事の時期や内容、取組み時間減による効果の検証とさらなる見直しの推進
- 心と体のゆとりと元気が保てる勤務時間の適正化(時間外勤務目標50時間以内、休憩時間・年休等の取得)
- 統合型事務支援システム・校務支援システム・出欠管理システム等の積極的な活用による教師の負担軽減